

いろはde歴史

---

いろはでれきし

いちまんねんまえ  
一万年



にっぽんれつとう  
日本列島  
あつわ  
現れる

ろくろ  
なくても  
どき  
土器  
づくり



じゅうもんじん  
縄文人の  
へいわ  
平和な社会

はじまる  
はじまる  
よんだいぶんめい  
四大文明



えじぶと  
エジプト  
めそぼたみあ  
メソポタミア  
いんだす  
インダス  
こわが  
黄河

にんげん  
人間は  
いかに  
いきるか  
ぎろん  
議論する



きげんぜんご  
紀元前後の  
ぎりしあ  
ギリシア  
ろーま  
ローマ

ほか  
他のムラとの  
まじりあ  
争い起こる



いなさくでんぱ  
稲作伝播の  
やよいじだい  
弥生時代

兵を従え  
東へ西へ



大和朝廷  
国家を築く

渡来人  
朝鮮半島  
から  
やってきた



漢字 儒教  
土器  
仏教  
伝わる

知恵を  
しぼって  
基礎固め



聖徳太子  
理想の政治

律令国家の  
しくみを  
つくる



皇子と鎌足  
大化の改新

奴婢と良民  
区別する



戸籍に  
基づき  
班田收授

盧舍那仏の力で  
国家を護る



聖武天皇  
天平文化

「をんなもじ」  
にて  
和歌を詠む



藤原  
摂関家の  
国風文化

私の土地は  
自分で守る



武士の棟梁  
平氏と源氏

鎌倉拠点に  
幕府を開く



御恩と奉公  
封建制度

よくぞ守った  
蒙古の襲来



執権時宗  
十八歳

尊氏義貞  
北条氏を倒す

た

後醍醐天皇  
建武の新政

連歌能楽  
茶の湯に  
水墨画

れ

日本らしい  
文化の  
芽生え

宋銭明銭  
大いに  
出まわる

そ

三代義満  
勘合貿易

ついに  
始まる  
戦国時代

つ

山名と細川  
応仁の乱

願わくば  
京都に上って  
天下を握る

ね

武田今川  
上杉毛利

南蛮文化に  
カルチャー  
シヨツク



な

鉄砲時計  
キリスト教

楽市楽座で  
力をつける



ら

織田信長は  
天下布武

無一文から  
天下人



む

太閤秀吉  
兵農分離

運命分けた  
関ヶ原



う

親藩譜代  
幕藩体制  
外様の

遺恨を  
残して  
豊臣滅亡



ぬ

家康の意地  
大阪の陣

農民は  
生かさず  
殺さず  
搾り取る

の

五人組での  
連帯責任

大阪は  
蔵屋敷並ぶ  
「天下の台所」

お

江戸との間に  
菱垣廻船  
樽廻船

国替  
減封  
参勤交代

く

武家諸法度で  
大名統制

耶蘇の団結  
幕府の脅威

や

三代家光  
鎖国を決意

松尾芭蕉か  
西鶴か  
はたまた  
近松門左衛門

ま

上方中心  
元禄文化

権力握った  
国王追放

け

名誉革命  
権利の章典

フランス  
王宮  
ベルサイユ

ふ

「朕は国家」の  
絶対王政

米将軍  
質素倏約で  
財政再建

こ

18世紀  
はじめの  
享保の改革

栄光の  
アメリカ独立  
フランス革命

え

自由と平等  
人権宣言

天明ききんで  
田沼失脚

て

老中定信  
寛政の改革



アヘン茶  
綿布で  
三角貿易

あ

産業革命  
イギリス  
世界を狙う

鎖国日本  
終わりを  
告げる

さ

井伊大老の  
修好通商条約

近代国家の  
扉を開く

き

坂本龍馬の  
薩長同盟

許しを請うた  
慶喜  
大政奉還

ゆ

王政復古  
戊辰戦争

明治維新は  
富国強兵

め

薩長土肥の  
藩閥政府

民権運動で  
国会開く

み

内閣創設  
憲法制定

清を破って  
ロシアも  
破る

し

条約改正  
中国侵略

絵空事  
全体主義が  
世界を  
揺らす

ゑ

反民主主義  
ファシズム  
の影

ひどい恐慌  
軍部が台頭

ひ

満州事変  
国連脱退  
日中戦争

もうだめだ  
しびれを  
切らして  
開戦決意

も

空襲原爆  
ポツダム宣言

戦後改革  
軍国主義を  
排除する



せ

人権尊重  
憲法改正

崇高な理想を掲げて  
再出発



す

国際連合  
平和をめざす

ん満足



ん

「いろは  
de歴史」  
完成じゃ